



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 6 月 3 0 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

「ヒル」はジャンプする

ヒルの話など気持ち悪いだけで、興味の無い人にとっては、まったく興味のわからない話だと思われているに違いない。しかし、ヒルの生息域はとても広く、淡水や陸上そして世界中の湖沼、池、水路などに見られ、水生生物を用いた水質評価手法（日本版平均スコア法）にもちゃんと「ヒル綱」として掲載されているので、水質調査したことある人はなじみがあるかもしれない。

私は以前、20年位前かな、山形県温海温泉の奥、何という山だったか忘れましたが、杉の大木の根本から湧き出る湧水を見に行ったとき、ヒルとアブの大群に襲撃され、特にヒルはまるで忍者のようにどこからともなく侵入し、足や腕に張り付いて、いつの間にか血を吸われ、体の前後端に持っている強靱な吸盤のせいで、無理やり引き剥がすと傷がすごい事になるため、ライターで火炙りにするという作業を繰り返していた思い出があります。

今回は、そんな、嫌われもののヒルの話です。ニューズウィーク日本版によると、「ヒルはジャンプできるのか、それとも頭上の枝から落ちてくるだけなのか。長年の議論について終止符を打つ「証拠」が提示された」という記事が掲載されました。なんと、ある科学者たちが、少なくとも1種の陸生ヒルが「ジャンプできる」ことを証明する動画撮影に成功したというのです。その科学者というのが、アメリカ自然史博物館、フォーダム大学、ニューヨーク市立大学メドガー・エバース・カレッジの科学者たちで、科学誌「Biotropica」に発表したのだそうです。

たかがヒルとお思いでしょうが、この議論は100年以上もの間続いていたというから驚き。

1300年代、イスラムの旅行年代記作者イブン・バッタータは、現在のスリランカでは「空飛ぶヒル」が水辺の木や雑草に潜んでいて、「偶然通りかかった人に飛びかかる」と記しています。しかし、少なくとも1838年には懐疑論者が、ヒルがそもそも木や低木に登れるかどうかはともかく、「落ちる」ことを「飛ぶ」と勘違いしているだけだとして、これを否定していました。ですがこの度、陸生のヒルが顎の上で吸血している様子を撮影した携帯電話の動画で、研究者のマイ・ファミさんは、ヒルがジャンプできるかどうかという100年来の論争に新たな章を開き、ようやく終止符を打つことができたそうです。



どのように飛ぶのかというと、陸生ヒルの一種「Chtonobdella leeches」が植物の葉の上で反り返り、その後身体を空中に投げ出します。研究者たちはこの動きを「コブラの後屈」やバネが元に戻る動きになぞらえていました。動画の中のヒルはジャンプをする際、普段のシャクトリムシのような動きとは異なり、身体を伸ばしたままの状態を維持して、体の反動を利用してジャンプしているように見えるのだそうです。文章だけではちょっと想像できないでしょ。動画を見るかぎりでは、体を伸ばしてぐるぐる回っていたようにみえたのですが。

気になる言葉

BtoB BtoC BtoE BtoG CtoC GtoC

BtoB とは企業どうしの取引

BtoC とは企業と消費者の取引

BtoE とは企業と従業員の取引

BtoG とは企業と行政の取引

CtoC とは消費者どうしの取引

GtoC とは行政と消費者の取引

取引別にジャンル分けが行われる理由は、取引によって要素が異なるからです。

例えば扱う商品の違いです。BtoCであれば普段プライベートで私たちが買い物をするエンドユーザー向けの商品である一方、BtoBは企業間の取引となり、個人ではなく企業が必要とする資材やツールとなります。

ブランド意識にも違いがあります。販売相手がエンドユーザーの場合、売り手がブランドを確立することで安定した顧客の獲得に繋がりますが、BtoBの場合はそこまでブランド意識は必要とされません。